広島研修

教育の広場

広島での学びを未来へ

弥富北中学校　竹森　菜々子

私は今まで戦争に興味がなく、考えたことも調べたこともなかった。しかし、広島に行って、この目で原爆ドームを見て、戦争がどれだけ残酷で悲惨なことなのか思い知らされ、よく考えさせられた。戦争は、どんな理由があろうとも許されない行為だ。学生の私には、まだできることは少なく無力だが、できることを日々考え生きていくことはとても重要なことだと思った。

【広島に落ちた原爆】

アメリカは1945年7月20日から8月14日までの間に、模擬爆弾(通称パンプキン)と呼ばれる爆弾を49発日本に投下し、約1600人の人が亡くなった。しかし、8月6日に投下された1発の原爆の威力は比べ物にならず、原爆が投下されたその日のうちに5万人から10万人が亡くなったのだという。原爆が投下されてもなお降伏しなかった日本に3日後2つ目の原爆が投下されてしまった。

【核兵器をなくすために】

1945年9月2日、広島と長崎の両方に原爆を落とされ、日本はついに降伏した。こうして、第2次世界大戦は終わった。現在、世界では平和への取り組みが進んでいる。1963年には「部分的核実験禁止条約(PTBT)」が発効され、2021年には「核兵器禁止条約」が発効されている。原爆が落とされてから、77年もの時が進んでいるものの、未だに核を作っている国はある。全世界から核が消え、『核兵器のない世界』になることを願っている。

平和な世界にするために

弥富北中学校　梅林　遼

原爆が落とされた広島に行き、被爆した人の話を聞いたり、原爆ドームを見たりしたことで、原爆の怖さや恐ろしさを感じることができた。これからの未来を担っていく私たちが、戦争のない平和な世界をつくっていく努力をしなければいけないと思った。それを実現するには、自分たちの行動を変えなければいけない。そんなことを感じた広島研修だった。

【奇跡のピアノの音色】

「被爆ピアノ」とは、爆心地の近くで原爆の爆風、熱線、放射能などの被害を受けても「破壊されずに形を残したピアノ」のことである。そのピアノの音色は、被爆をしたのにも関わらず、本当に綺麗な音色だった。「被爆ピアノ」は、原爆の惨禍を乗り越えて、77年経った今も変わらず素晴らしい音色と音楽を私たちに届けてくれている。本当に奇跡のピアノだと感じた。

【平和記念公園での話】

平和記念公園には、「慰霊碑」や「被爆したアオギリ」、世界遺産に登録されている「原爆ドーム」などがあるが、私は公園内でボランティアガイドさんから聞いた話がとても印象に残っている。原爆により足を怪我した人が手術も受けられず、麻酔もなしで足をノコギリで切断したという話だ。戦後、大変な環境の中で生き残るために、どんなことでもやらなければならなかった。そんな状況にした戦争や原爆による悲惨な被害を許せないと思った。

教育の広場

弥富北中学校

弥富北中学校では、校訓「至誠」のもと、知・徳・体の調和がとれた人間性豊かで実践力のある生徒の育成を目指し、さまざまな教育活動を行っています。その活動の一部を紹介します。

特別活動と連携した健康教育

「弥富市健康都市宣言」に関する取り組みとして、体育の授業では「弥北7分トレーニング」と題し、基礎体力づくりのためのトレーニングを行っています。また、「月別保健目標の設定や保健室前の掲示」(保健委員会)、「食を通した健康増進の啓発活動」(給食委員会)など、特別活動と連携した健康教育を推進しています。

地域と連携したキャリア教育

キャリア教育の一環として「職場体験学習」を行っています。コロナ禍の影響もあり、4年ぶりに行うことができました。働く方の姿を間近に見たり、その職業を実際に体験したりすることで、働くことの素晴らしさを感じ、将来の生き方について考える機会としています。地域と連携したキャリア教育を推進しています。

自ら考え行動する自問清掃

弥富北中では、清掃の時間を「自問清掃」と名付け活動しています。「人に言われてやる」のではなく、自ら気付き、考え、具体的に行動する気持ちや姿勢を育んでいくことを目標にしています。自問清掃によって「根気玉」(進んで清掃に取り組む心)、「親切玉」(人を助けようとする心)、「発見玉」(新しいことを見つける心)という3つの玉(心)を磨いていきます。15分間、全校生徒が一斉に、無言で、黙々と掃除に取り組む姿は圧巻の一言です。